

# 子どもたちの成長を見つめ続けて 12 年

## —第 12 回子どもエコ俳句大賞表彰式—

平成 30 年 1 月 28 日 (日) 於・此花会館

主催：一般財団法人 住友生命福祉文化財団

認定 NPO 法人 シニア自然大学校



特選句 (坪内 稔典賞) 3 句のうち、壇上に登ったのは低学年の部・近藤 瑞希さん (大津市堅田小学校 1 年生) と、高学年の部・坪田 果歩さん (姫路市山田小学校 6 年生) の 2 人でした。

近藤 瑞希さんの句は

うんどうかい おとうさんが みえたよ

「いつも朝早く出て夜遅く帰ってきて、お父さんとは週 1 回ぐらいしか会えません。そのお父さんが運動会を見に来てくれて、私がダンスしているときビデオカメラを回しているのが見えたの。とっても嬉しかった。」

一方、坪田 果歩さんの句は

家の庭 ジャコウアゲハが ゆっくり飛ぶ

「3 年生の時から毎年応募し入選しています。ジャコウアゲハは姫路市の市蝶なのです。学校にはジャコウアゲハが好きなウマノズクサが植えてあります。きっと学校に来たチョウが、私の家の庭にも寄ってくれたんだと思いました。」

更にこの日欠席の中学年の部・藤岡 奈七生さん (橋本市恋野小学校 3 年生) の句

さつまいも ぼくの顔より 勝っている

も、二人と同様に作品がステージ画面に映し出され、会場の全員で唱和されました。



特選句表彰の 2 人

此花会館は、ここ数日の大寒波の影響が残る厳しい冷え込みにも拘らず、受賞者 106 人とその保護者、主催者側関係者を含む 360 人余の参加で賑わいました。

冒頭、主催者挨拶に立たれた一般財団法人 住友生命福祉文化財団 の小阪 博司 常務理事は「近年、子どもさんたちが屋外で過ごす時間が減っている。そこで、少しでも自然に目を向け興味を持ち、エコの視点も入れて、句にして送って戴ければ、という趣旨で始めたこの企画も、今年で 12 回、応募総数は 5 万 7 千句を超えた。俳句のテレビ番組が人気を博すなど、国際的にも俳句への関心が高まっているのは喜ばしい」と会場の子どもたちにエールを送られました。

残念にもインフルエンザにかかれご欠席の坪内 稔典先生 (京都大学名誉教授、佛敎大学名誉教授、俳句グループ「船団の会」代表) に代って、選者の一人、田中 俊弥

先生 (大阪教育大学教育学部教授) は、稔典先生のお人柄や知られざるエピソード、今回の特選句に寄せられた講評などをユーモアを交えて紹介されました。

表彰式は司会者の手慣れた進行でスムーズに進み、前掲の特選 3 句を筆頭に、準特選 3 句、優秀賞 40 句、優良賞 60 句、計 106 句が次々とステージの大画面に映し出され、受賞者が壇上に登って賞状と賞品を受取り、拍手を浴びました。

特選句と準特選句には、会場の皆がスクリーンに映し出された句を唱和するという心憎い演出がっていました。特選 3 句は田中先生が稔典先生の講評の趣旨を披露されたのち受賞者にインタビュー。準特選 3 句の講評と授与は、同じく選者の植山 俊宏先生 (京都教育大学教育学部教授)、土井 俊信先生 (全国小学校国語教育研究会顧問) と田中先生が 1 句ずつ担当されました。

特別賞 (ポスター絵画の最優秀作品)、団体賞 (最多投句数の上位 5 校) の紹介と表彰をもって表彰式は無事終了。

当校・濱面 誠代表の「当企画は来年以降も引き続き行う。さらに多くの感性あふれる作品を！」との力強い挨拶で



特別賞表彰の阿部紗花さん

お開きとなり、そのあと会場のあちこちで、受賞の余韻を楽しむかのように、表彰状を嬉しそうに掲げてカメラに収まり家族から祝福される受賞者の姿が見られました。

応募総数 57, 224 句、応募校 490 校。昨年より更に 5, 000 句が上積みされたこととなります。主催者の皆さま、1 年がかりの活動の締めくくりの会を終えて、ほっとされたことでしょう。まことにお疲れさまでした。 (広報 芳川)